

とよかわ市民協働推進計画実施施策評価書

基本方針 1 市民活動に関する情報収集・提供

実施施策 1	紙媒体による情報提供の充実	委員会評価	4
委員会の意見			
<p>《進展したこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生への冊子「地域を支える町内会のひみつ」の配布は、町内会を学ぶ機会になり、紙媒体の有効活用ができています。出前講座の講師を連区長や町内会役員に依頼するのも良い。 ・とよかわボランティア・市民活動センターだよりでは、イベントや講座の情報を前年より多く掲載できている。 ・幅広い年齢層の市民が気軽に市民活動へ参加できるきっかけづくりとして、フリーペーパーなどを含めた紙媒体の情報提供は重要。新たな情報源を開拓したり、回数を増やしたりすることも検討すると良い。 ・メセナやスポーツとよかわは新聞折り込みで各戸に配布されるので、今後も有効活用をしてほしい。 <p>《残された課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生に対して実施している出前講座を中学生にむけて実施するのは難しいのかもしれないが、形式を変えて町内会に意識を持つ事業ができると良い。 ・とよかわボランティア・市民活動センターだよりの閲覧率が大きく下がったのはなぜか。原因の調査と対策の検討が必要。また対策として、センターだよりを広報とよかわへ入れ込む際に社協だよりと重ならないように調整したり、入れ込む箇所などに工夫がほしい。今後は目に留まるようにカラー刷りにすることも要検討。 ・企業情報紙（会社独自の情報紙）の調査をし、協働への理解を深め紙媒体の情報提供の充実を目指してほしい。 ・企業紙や民間フリーペーパーへの市民活動情報の掲載が少ない数で推移している。より多くの活動を掲載してもらえよう、情報提供の働きかけを進めてほしい。 ・若年層や働く世代にも届く情報提供をすると良い。 ・市民活動に参加しやすい環境づくりを希望する。 ・紙媒体自体が衰退傾向にあるようで、情報誌も一時の規模を維持できていないように見える。不特定多数への周知の一方で、特定多数へ確実に配布されるような媒体も視野に入れていく必要がある。 ・企業紙や民間フリーペーパーによる広報活動は、幅広い層に情報を届ける方法として有効。新たな情報源を開拓したり、回数を増やしたりすることも検討すると良い。 ・画一的な情報提供のツールとして紙媒体を使用するのではなく、ターゲットや目的によって紙媒体とインターネットとを併用し、適宜使い分けてはどうか。 			

実施施策2	インターネットなどの効果的な活用	委員会評価	4
-------	------------------	-------	---

委員会の意見

《進展したこと》

- 市民活動ボランティア情報システムの登録者・広報リポーター登録者が増加し、その効果に期待ができる。
- Facebook や Twitter への情報掲載件数が前年度に比べて非常に伸びており、閲覧者へ提供される情報の充実が図られている。
- 講座の申込手段の手段に「あいち電子申請届出システム」を活用することが着実に進展しており、時間や場所にとらわれない利用が進められている。インターネット申込の講座やボランティア等が増えて、若年層が参加するハードルが下がって良い。
- SNS 活用した情報提供が推進されていて、情報への信頼度も高まっている。

《残された課題》

- とよかわボランティア・市民活動センタープリオの Facebook や Twitter のフォロワー数がまだ少ないように見受けられるので、今後どのように伸ばすかが課題。情報ひろめ隊のようなグループができれば、フォロワーの増加に成果が出るのかもしれない。今後も改善していく工夫をしてほしい。
- 検索させるのではなく、興味を持たれる様に誘導しないと意味がない。若者が SNS 上で目に付くように拡散する必要がある。
- LINE など誰もが使いやすいところでの発信が望ましい。
- インターネットの利用は、利用しやすい分相手の顔が見えにくいこともあるので注意が必要。
- 最新の情報を提供できるように配慮すること。
- 「あいち電子申請届出システム」による手続きを活用できる場面はまだ開拓の余地があるので、さらなる拡充を望む。
- 広報リポーター制度が活発になることは、情報の拡散量が増えて好ましいので、この制度を活発にする支援策をさらに推進すると良い。

基本方針2 人材育成と協働意識の醸成

実施施策1	担い手の育成と活用	委員会評価	4
委員会の意見			
<p>《進展したこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で養成講座等の開催中止・縮小が相次ぐ一方で、動画配信を合わせて実施するなどの感染対策を講じることで、養成講座や出前講座の受講者数が前年度より増加したことは評価できる。 ・核家族が増えているので、講座等で参加者用の託児があるのは良い。 ・ボランティア・市民活動等の参加のきっかけとなる講座が、各担当課で切磋琢磨して開催されている。今後、いろいろな場面で活動されている方の参加を促してほしい。 ・コロナの影響の違いもあるので単純には比較できない面もあるが、概ね前年度よりも実施状況が好転しており、参加者数も堅調である。特に若年層ボランティア体験講座は、令和3年度はコロナのため中止となった事業が多かったようだが、参加者の関心は高く、市の取り組みが周知され始めてきた。若者ボランティア受講者の今後の活躍にも期待する。 ・ボランティア参加のきっかけづくりとして、今後も様々な種類の体験講座を考案して、認知度をあげていくと良い。 <p>《残された課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォローアップ講座の参加者が少なく感じる。内容の見直しも必要。 ・コロナ禍でもできる活動を模索すると同時に、コロナで不安にならないような環境を整えることも重要。 ・養成講座では、開催日・受講方法（対面以外）・参加しやすい場など、子育て世代や働く世代にも配慮してほしい。 ・受講者が養成講座で学んだ知識を活かして活動ができるようにするためのフォローアップ体制の整備が必要。 ・若年層や働く世代が参加のきっかけになるような講座をより多く計画すると良い。（若年層・働く世代が興味ある講座など） ・全国各地で過去にない規模の災害が発生しているので、とよかわ防災リーダー養成講座などは積極的に事業を推進してほしい。 ・コロナの影響はすぐには収まらないと予想され、初めからオンライン形式での講座等を設定しても需要があるのではないか。 			

とよかわ市民協働推進計画実施施策評価書

実施施策2	協働意識の醸成	委員会評価	4
-------	---------	-------	---

委員会の意見

《進展したこと》

- 協働ガイドをあらゆるところで配布し、市内の協働の取り組みを周知できた。
- 市民協働による取り組みを促進するための団体交流会は、前年度より開催数・参加者数が増加しており、市内事業所の従業員のボランティアの参加促進・情報共有が図られている。
- 企業向けボランティア出前講座の開催状況が大きく好転しており、今後も期待したい。
- 現状に即した市民活動の考え方を身につけるために、出前講座の実施や推進委員の活動推進はとても有効。

《残された課題》

- 推進委員が各課で成果をあげられるとよい。提案事業が出るように今後も働きかけが必要。
- PTA の研修会が紙面開催で続いていて、PTA 活動での問題点が本当に話し合えるか疑問。人数縮小・リモートなど検討して開催してほしい。
- 外国人居住者も多いので、参加しやすい外国人向けの講座の開催を希望する。
- 事業内容が固定化する傾向にあるため、本施策の進展のためにも企業へのアプローチが重要。
- 企業向けボランティア出前講座開催後、実際に各企業において社会貢献活動に繋がるアフターフォローを検討すること。

基本方針3 市民活動団体の支援

実施施策1	活動拠点の充実	委員会評価	4
委員会の意見			
<p>《進展したこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリオの市民活動室の空調に関しては、数年かかったが整備でき、活動しやすい拠点となった。 ・地区市民館をはじめとする施設の整備が着実に進捗しており、ハード面での環境が向上している。 ・公共施設の減免施設が増え、拠点の充実につながっている。 ・コロナでも安心できる環境を提供できている。 ・財政的支援などにより、活動拠点の充実・安定した事業に取り組むことができる環境が整ってきている。 ・市民活動団体等の活動場所の提供協力をもらえる企業の調査を行うことができたことは、今後に期待できる。 ・活動拠点の場所の提供、経費などの支援を拡充していくことは、市民活動を推進するために役立っている。 <p>《残された課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗情報については、ニーズが見受けられないため継続するかどうかということだが、どこのニーズをひろっているのか不明。各地区の商店街・商工会議所等協力して活用できないか。 ・空き店舗情報の提供に関しては、担当課の判断を尊重した方がよい。 ・ボランティア・市民活動団体の活動場所の提供協力をもらえる企業の調査件数がより多くなると良い。多くなることによりたくさんの事業所に協働という活動を周知できる。 ・豊川市内のエリア別の活動拠点ニーズという視点も必要。 ・施設整備には時間と予算が必要で、一朝一夕には進まないが、計画に基づいて着実に実施する努力の継続が重要。 ・減免制度の拡充や民間施設の活用など、活動しやすい環境をさらに充実していくことが必要。 			

とよかわ市民協働推進計画実施施策評価書

実施施策2	財政的支援などの充実	委員会評価	4
-------	------------	-------	---

委員会の意見

《進展したこと》

- 子育て支援課のつどいの広場の開設日が、前年度より増加した。(評価は下がっているが努力は見られる。)
- 前年度に引き続き、多くの協働事業の委託ができています。今後も継続すべき。
- 町内会応援事業所制度の登録事業者数は着実に増加し、事業所に周知できており、良い町内会応援の体制ができています。
- 市民活動団体や町内会が安定して継続的に事業を行うために、補助金や経費補助は大変有意義な施策。事業を協働で行うことにより、いろいろな方が関わり、幅広い活動ができています。
- 市民協働推進事業補助事業では、前年度よりも対象事業数は減少しましたが、防災面での事業での活用が定着しています。
- 企業に対する市民活動支援への意識調査や寄附協力の募集は、財政的支援の充実とともに市民協働の啓発にも繋がっている。

《残された課題》

- プリオの団体活動室は、使用料を安価に見直しできると良い。
- 市民協働推進事業数が減少している。補助金を活用できるよう、呼びかけ等が必要。
- とよかわ応援寄付金の企業版ふるさと納税は企業にとってもメリットが大きいので、より多くの企業への周知が必要。
- 財政的補助が当たり前にならないような支援も必要。
- 町内会等を対象とする補助金事業は定例的なものが多いため、上記の市民活動推進補助事業が一定の団体に固定することなく、より活性化することを期待したい。
- コロナ禍など困難な状況下では、子育て世代への支援の滞りが心配される。子育てスペースの拡充や安心できる場の提供は今後も改善に向けて検討してほしい。
- 長引くコロナ禍で委託する協働事業に未実施のものが多く見受けられる。財政的支援と合わせて、コロナ禍での新しい事業実施方法について提案していく必要がある。

実施施策3	人的支援の充実	委員会評価	4
-------	---------	-------	---

委員会の意見

《進展したこと》

- 各種養成講座、スキルアップ講座とも順調に事業展開しており、人的支援の充実が図られている。
- 防災ボランティアコーディネーターフォローアップ研修において、災害時のボランティアと被災者との調整役を果たせることはとても良い。
- 昨年度よりもスキルアップ講座の開催を担当する課が増え、様々な試みがあり有意義な活動となっている。
- 町内会アドバイザー派遣事業では、検討会に留まらず、地元協議や実践まで繋ぐことができしており、より実効性のある事業に進展した。今後、別の町内会が参加していくことが期待できる。

《残された課題》

- 各課で行う講座について、まだ人的支援の充実になるものがある。
- コロナで中止ではなく、コロナだからこその対応の仕方や、知識技術も今後は取り入れるべき。
- 市民活動をする上での知識や技術を向上させるためのスキルアップ講座、令和2年度に開催したSNS講座やクラウドファンディング講座などは、今の時代にあったものだったので、再度開催を検討しても良い。
- 多くのリーダーが、継続的に活動できるような支援をお願いしたい。
- 町内会アドバイザー派遣事業に参加した4町内会で、事業の成果がどのような形となって表れるのかを継続して把握する必要がある。
- 図書館ボランティアだけでなく、各課が所管するボランティアについて、それぞれの所管で定期的にスキルアップ講座を開催して活動者の確保に努めてはどうか。
- 市民活動が成長するためにも、アドバイザーや、継続的でタイムリーな研修が必要。
- ニーズをとらえて、新しい研修を提供すること。

とよかわ市民協働推進計画実施施策評価書

基本方針4 市民協働推進の仕組みづくり

実施施策1	推進・連携体制の整備	委員会評価	4
委員会の意見			
<p>《進展したこと》</p> <ul style="list-style-type: none">・町内会や企業・団体とのマッチングの仕組みづくりは今後も重要性を増すので、着実に定着しているのは評価できる。・新型コロナウイルス感染症拡大のため中止になった事業もあったが、前年度に引き続き市民協働の推進・連携体制の整備ができています。・市民が中心となって市民協働に関する事項を審議する「市民協働推進委員会」の設置は、市民活動団体、町内会、企業などのマッチングを行う仕組みづくりとして果たす役割が大きいため、今後も多めに活動してほしい。・市民活動団体代表者が関わる会議が整ってきている。各事業に多様な意見を反映させ、連携するためにも、丁寧に取り組んでいけると良い。 <p>《残された課題》</p> <ul style="list-style-type: none">・各課が連携して事業を展開できると良い。・市民活動者等の登用が幅広い年代で構成されているか。若い人の声も多く活用できると良い。・相談窓口がわかりにくい。・今後各課が審議会等を新設する場合に備え、市民活動団体の情報を適切に提供するなどの対策を行うこと。・市民活動団体や町内会、企業をマッチングする仕組みづくりは今後の協働体制づくりに役立つと思われるので、実績を増やしてほしい。・個々の地域課題解決に向けた事業・活動に対するより柔軟な推進・連携体制の整備が必要。			

とよかわ市民協働推進計画実施施策評価書

実施施策2	協働事業の評価・公表	委員会評価	4
-------	------------	-------	---

委員会の意見

《進展したこと》

- 市との協働事業数が年々着実に増加している。
- 各課で行う協働事業を市のホームページで公表することで、より多くの人に見てもらい体制が整っている。多くの事業がどのように展開されているのかが市民にわかり、市民活動への理解にもつながっている。コロナ禍でできることが限られてくるが、いろいろな情報を共有することは重要。

《残された課題》

- 協働事業をどれだけの市民が理解し、市ホームページを見ているのか。市民への公表はいろいろな場面で見受けられるが、より周知・認知を広げてほしい。
- 市ホームページは検索しないと見つからないので工夫が必要。
- 経年状況が一覧できるような簡易な形式での表示を併設してはどうか。
- 協働事業の評価・公表に誰もがアクセスしやすいようにネット環境のデザインを工夫すべき。